

## 令和2年度10月試験 応用情報技術者試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2020,12,25

10月18日(日)に行われた令和2年度の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。新型コロナの影響で4月に実施予定だった試験が延期され10月に実施されたものです。IPAから発表された得点分布など統計データの分析をもとにして、応用情報技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

### ■応用情報技術者試験 (AP)

[令和2年10月実施 応用情報技術者試験 統計情報]

応募者	42,393人
受験者	29,024人
合格者	6,807人
合格率	23.5%

今回の応用情報技術者試験の合格率は23.5%で前回の23.0%よりも0.5%上がりました。合格率は平均よりもやや高い結果です。今回の試験では新型コロナウイルスの影響で応募者は減少しましたが、受験率は68.5%で平成21年以降では最も高くなっています。

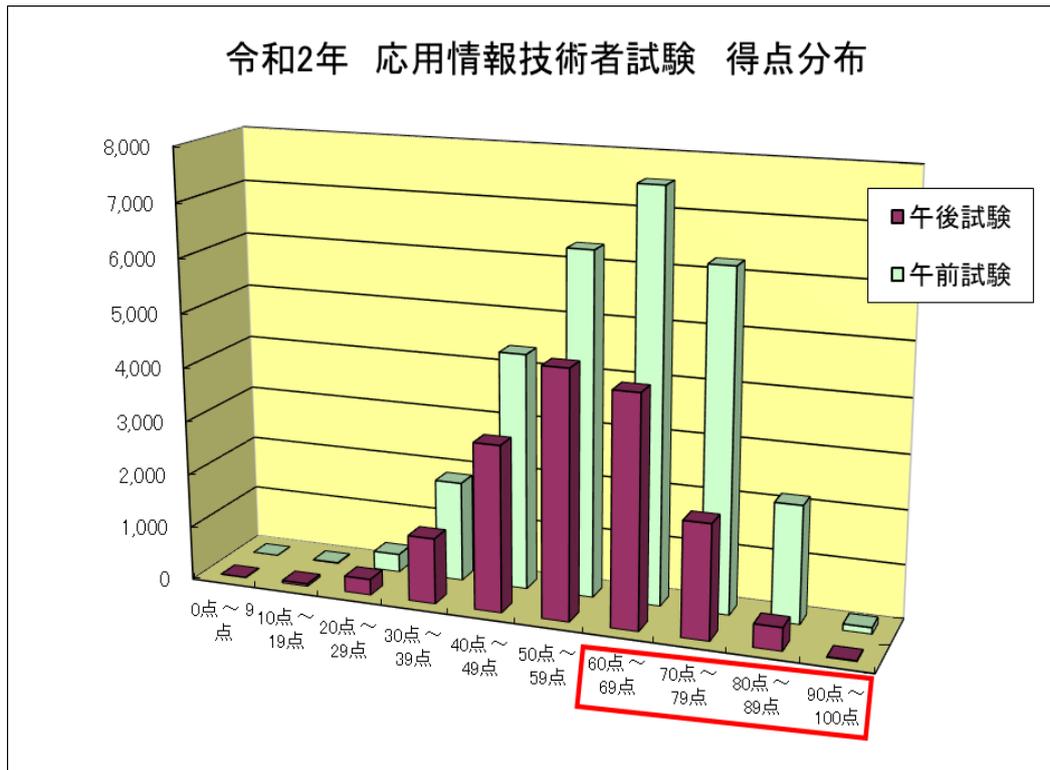
次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[令和2年10月実施 応用情報技術者試験 スコア分布]

令和2年10月AP	応募者	受験者	合格者
人数	42,393	29,024	6,807
率		68.5%	23.5%

得点	午前試験	午後試験	合格者
0点～9点	3	9	
10点～19点	14	49	
20点～29点	337	296	
30点～39点	1,859	1,220	
40点～49点	4,380	3,073	
50点～59点	6,347	4,563	
60点～69点	7,546	4,258	
70点～79点	6,249	2,107	
80点～89点	2,170	427	
90点～100点	119	15	
計	29,024	16,017	6,807
対前試験比率		55.2%	42.5%
<b>合格者数</b>	<b>6,807</b>	採点者数の割合	合格者数との差
午前60点以上合計	16,084	55.4%	9,277
午後60点以上合計	6,807	42.5%	0

## 令和2年 応用情報技術者試験 得点分布



今回の令和2年10月実施の午前試験では合格基準点の60点以上の人が16,084人で受験者の55.4%でした。前回の平成31年春期試験は43.3%でしたので、かなり上がりました。新傾向問題が増えてやや難しく感じられましたが、得点には影響なかったようです。

午後試験で合格基準点の60点以上を超えている人(合格者)は6,807人で、採点数の42.5%にあたります。前回の平成31年春期試験では53.4%でしたから、こちらは10%ほど下がっています。午前試験で60点以上得点できた人は増えましたが、午後試験では苦勞した方が多かったと思われる。

ボーダラインといえる得点結果の人について、午前試験で50点以上60点未満の人が6,347人(受験者の21.9%)、午後試験で50点以上60点未満の人が4,563人(同28.5%)と、どちらも全体の約1/4の人が、あと10点で合格できるラインにいます。この得点ゾーンの方は、合格まで“あと一歩”のところにいるので、苦手と感じる分野を中心に早めに次の試験対策を始めてください。

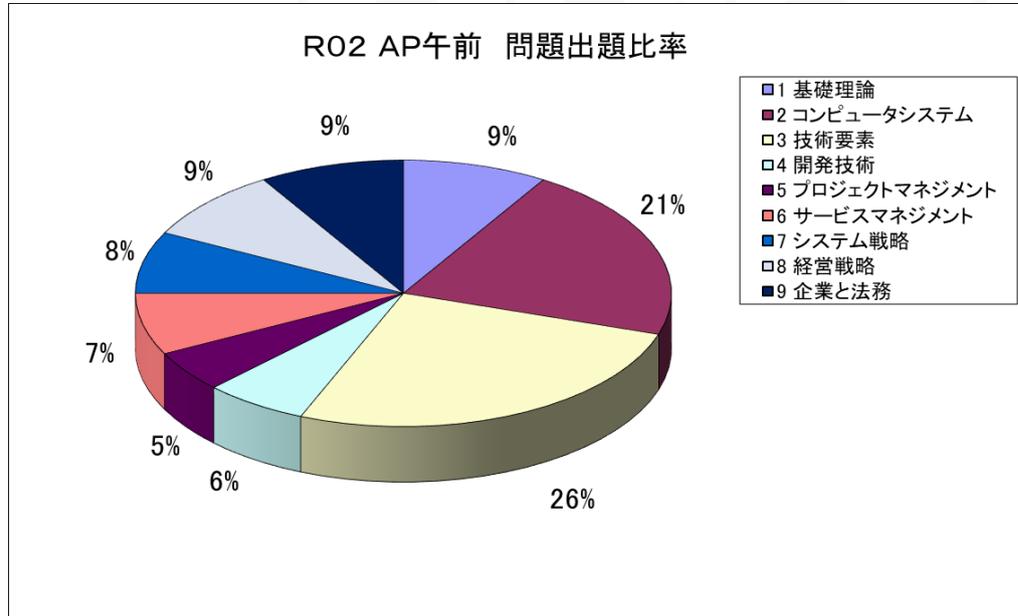
### ■令和2年10月実施 応用情報技術者試験 出題内容について

#### (午前問題)

- ・ 午前試験問題はここ数回、少しずつ難しくなる傾向があります。前回実施された令和元年秋期試験と比べて、今回、用語問題と考察問題が増え、文章問題と計算問題が減りました。過去に出題のあった問題は平易な内容が多かったのですが、これまで出題のなかったIT用語の新しい問題が多く、全体として前回よりも少し難しかったと思われます。
- ・ 過去問題は全体の6割強で前回とほぼ同じです。また、応用情報技術者試験の過去問再出題は32問(前回34問)、基本情報の過去問は10問(前回3問)ありました。また、高度午前II試験からの出題は減り4問(前回10問)で、内容も平易なものでした。
- ・ 新傾向または新しい用語に関する問題は次の20問で、前回の15問からかなり増えました(他の高度試験で過去に出題されている内容でもAPで初めて出題されたものは含めています)。やや細かい内容も出題されており、難しく感じた人が多かったと思います。

- 問 7 オブジェクト指向のプログラム言語 (Python)
- 問 11 3D 映像の立体視を可能とするアクティブシャッタ方式
- 問 13 サーバコンソリデーションの説明
- 問 18 仮想記憶方式のプリページングの特徴
- 問 21 デジタル回路を記述して直接論理合成するために使用されるもの
- 問 23 LUT と等価な回路
- 問 31 LAN ケーブルを利用して給電を行う仕組み
- 問 35 DHCPDISCOVER メッセージの IP アドレス
- 問 38 OCSP クライアントと OCSP レスポンドの通信
- 問 41 クリプトジャッキングに該当するもの
- 問 45 メール本文を含めて暗号化するプロトコル
- 問 49 アジャイル開発手法のスクラムの説明
- 問 53 プレシデンスダイアグラム法における作業完了日数
- 問 58 システム監査基準におけるウォークスルー法の説明
- 問 65 グリーン購入基本原則に該当する購入例
- 問 66 レベニューシェア型契約の説明
- 問 69 プライスライニング戦略の説明
- 問 71 CPS (サイバーフィジカルシステム) を活用している事例
- 問 72 企業システムにおける SoE の説明
- 問 78 プロバイダ責任制限法が定める送信防止措置

令和 2 年 10 月実施の応用情報技術者試験 午前問題出題比率



〔午後問題〕

今回出題された問題は、問 8 の情報システム開発の問題がアジャイルソフトウェア開発のスクラムに関する新傾向の内容でやや難しかったです。他に問 10 のサービスマネジメントの問題が会計の知識が必要でやや難しかったといえますが、やや易しかったといえる問題も 3 問あり、全体としては前回の難易度と大きな変化はなかったと思われます。

午後の試験対策としては、各問題の出題テーマに関連する午前試験レベルの知識を確実に理解し、問題事例に適用できるよう、しっかり演習を行う必要があります。

- 問1 内部不正による情報漏えいの対策（情報セキュリティ） 普通
- 問2 新事業の創出を目的とする事業戦略の策定（経営戦略） やや易
- 問3 誤差拡散法による減色処理（プログラミング） 普通
- 問4 機器とクラウド連携するシステム方式設計（システムアーキテクチャ） 普通
- 問5 仮想デスクトップ基盤の導入（ネットワーク） 普通
- 問6 宿泊施設の予約を行うシステム（データベース） やや易～普通
- 問7 多言語多通貨対応両替システム（組込みシステム開発） 普通
- 問8 アジャイルソフトウェア開発手法の導入（情報システム開発） 普通～やや難
- 問9 稼働延期に伴うプロジェクト計画の変更（プロジェクトマネジメント） 普通
- 問10 サービスの予算業務及び会計業務（サーピスマネジメント） やや難
- 問11 販売システムの監査（システム監査） やや易



